

未来を生きる私たちと 未来に向けてのSDGs

只見中学校・1年 ニックニ ユメ 新國 夢萌

東日本大震災から十年がたちました。みなさんは、「東日本大震災」という言葉を聞くと、なにを思い浮かべますか？私が思い浮かべるものは「恐怖」というこの二文字です。当時私は三歳だったのでほとんど記憶はありませんが、大人の方の話を聞くとその時の大変さがわかりました。私たちが住む只見町は水害や地震は小さく、被害はあまりありませんでした。しかし、太平洋沿岸部に住んでいた人たちは、とても苦しく悲しかったと思います。死者や行方不明者の数は何万人も、被害額は何十兆円もしたそうですね。この大きな震災でどれだけの人が悲しんだか、私には想像できません。被害にあった人たちは、自分の家にも帰ることができず、なれない環境の中で生活をして、精神的にも苦しかったと思います。その後も他県の人たちからはあまり良い目では見られず、ひどい扱いを受けてきたと思います。私はこれらの事から自然や環境がもたらす恐怖と人々がもたらす恐怖を知りました。

そこで、今私たちが学んでいるSDGsの目標、十七項目と結びつくと考えました。私が特に気になったのは十一番の「安全で災害に強く、持続可能な都市及び居住環境を実現しよう」という災害についての目標です。日本の防災は、自然災害の被害を減らすための備えと、被害から少しでも早く復興する力が世界で注目されています。この目標を達成することができたら、災害にあったとしても復興が早いから人々も安心できると思います。

震災の中でも特に被害が大きい「海」にも目標があります。それは十四番の「持続可能な開発のために海洋資源を保全し、持続可能な形で利用しよう」です。海は、津波や台風など大きな災害をもたらしてしまうこともありますが、私たちが口にする海産物を供給してくれて、豊かな生態系や海水温が気候の安定に大きな役割りを果たしてくれています。災害の時に海は人々を怖がらせているけど、私たち人間も海を怖がらせているのです。

それは、近年、大量のごみや海洋汚染、サンゴ礁やマングローブ林の減少、地球温暖化など、人の力によって海を崩してしまっています。このままごみが増え続け、地球温暖化が進んでいったら、地球に住めなくなると聞きました。そのようなじたいを避けるために、今私たちができることから取り組んでいきたいです。

震災のことは忘れず、二つの目標を達成できるように日頃から意識して生活していきたいです。